

読売歌壇

小池 光選

銭湯の煙突撤去され町のひとつの時代の重心は消ゆ 山口市 岡田 貞義

【評】昔この町にもあったお風呂屋さん。次々閉業してその煙突もついに解体撤去された。銭湯の煙突が町の重心だったという把握が鋭い。いま町の重心はどこにあるか。

退院して今朝は生「三」出す日なり生「三」出しに行けるしあわせ 西条市 山本美知子

【評】「三」飾り気のない歌だがはつとずる。生「三」を出しに行こうと「しあわせ」であるという気持ちに打たれる。無事退院できた。生きる喜びとは「三」だった。

過ぎすなの一言添へてふるさとの地酒と露の臺とどきけり 町田市 谷川 治

【評】ふるさとの友人からの贈り物か。ふるさとの酒を贈る、ただし飲みすぎないよと。露の臺が添えてあるところが心くばり。

夜桜の裏手の闇に分け入りぬ人の心に踏みこむこと 北上市 佐々木清志

退院の妻は祝いの夕食後流しに立ちて「これしたかった」 高崎市 熊沢 峻

土手したの春の茂みに犬でなく猫でもないのがじつと吾を見る 太田市 木戸 健房

蛇口よりあたたかき湯の出る厨ふたりの祖母は知らず逝きたり 和歌山県 助野貴美子

ふぞろひの玉ねぎ見ればおのおのの面魂の頼もしきこと 北九州市 白木 典子

訪ひゆけば幼の如く父泣き震へる指にウレシキと書く あきる野市 小林 隆子

小学校共に学びし仲間らが岬の宿で喜寿を祝ひぬ 筑西市 笠倉 等

栗木 京子選

救命士をめざす女孫とじいじ今実習試験のシミ ユレーションを 川越市 和田美千子

【評】高齢者への対応をするのも多い救命士。実習試験の練習相手を祖父が申し出てくれたのだろう。こんなに心強いことはない。二人の連携にエールを送りたくなった。

「妹に母さん譲る」と決意せし娘の心を知らざるを悔ゆ 熊本市 柴田 尚園

【評】妹が生まれて、姉は我慢することが多かったのだろう。母である作者は姉の苦しみにも長らく気付けてやれなかった。だが「悔ゆ」の愛情は今からでも伝わると思う。

お手玉でペットボトルを倒す技タイケアの皆は本気度見せる 清瀬市 竹村由紀枝

【評】ゲームだからこそ無心になって熱中することが出来る。さまざまに技を競い合う人たち。「本気度」という言葉が効いている。

シルバーカーの利用を母に説きしときゲアマネさんと同志となれり 平塚市 北村みゆき

テヘランの古美術商より求めたる中世の燭台我が家で健在 東京都 青山 繁

子と入りし箱根駅伝ミュージアム坂井望師の遺影を探す 相模原市 荒井 篤

原油高なればしらすの初漁もゆるりゆるりと湾を出で行く 静岡市 海瀬安紀子

斯かる人が大統領かと嘆けども斯かるトップは何人もある 神奈川県 中島まさか

タバスコのような小言を聞きながらランチに母と食むナポリタン 平塚市 風花 雫

今はもう生きる意味など問わずして傘寿の友と空を見上げる 茨城県 加藤 侑子

依 万智選

プランコのタイムマシンに並びあて昔話を大きく揺らす 青梅市 諸井 未男

【評】もう子どもではない二人が、プランコで重心に帰る様子を捉えた上の句が楽しい。勢いよく揺らすことに昔話が盛り上がる感じが、助詞「を」で簡潔に表現されて見事。愛の字の心をぬいてもなんとなく愛だとわかってしまっただけ。

【評】間違った漢字でも、脳が補って見てしまつらしい。そんな身体の現象を言いながら、どこか愛の本質をも感じさせて「こわい」。

既読にはしないと決めて湯を張ればお風呂は思ひ出よりも大きい 東京都 石井 しい

【評】メッセージを決して読まない(あるいは既読をつけない)という決意。お風呂と思ひ出を比べる下の句がユニークだ。過去よりも確かに自分を包んでくれる「今」が、大事。

クッキー缶を一周しての透明のテープくらいは使命を果たす 東京都 大岩 摩利

「いいわねえひとり旅なの？気楽ね」と言われ(なければ気楽です)「はい」 高崎市 くらたか湖春

醫生検と人生経験は少し似ている経験したくなかったけれど 堺市 一條 智美

君は顔のホクロの数を嫌うけど星座のようにうつくしいです 所沢市 ラング

北国で育った友は雪のこと困った伯父が来たみたいと言っ 川崎市 全 美

イヌノフグリ一気に咲きて川土手に春引き寄せる花はちひさく 市原市 井原 茂明

誠実がみな均等でないようにジャムパンのジャム偏っている 名古屋市中区 河

黒瀬 珂瀾選

一度目の寿命のように母さんがあなたを産んだ歳よと言われた 福岡市 水川 海

【評】だから貴女もそろそろ子どもを産め、との裏の意味を感じる。女性には「身体の期限」があるとも言いたげな無言の庄。今や社会全体で生き方を考え直すべき時代です。退職が迫り分厚きマニュアルを素手にてちぎるシュレッターのため 大和郡山市 大津 穂波

【評】便利な機械を使うために機械に合わせ人間が手作業せねばならない、というのも皮肉。職場詠の多い作者ですが、いよいよご転職でしょうか。人生の一時期を清算するかのようにつづり類をちぎる手の動きが印象的。紫蘇の芽がたくさん出たと喜んで伝える人のなき朝の庭 川越市 鈴木 知左

【評】季節の小さな喜びを伝える人のいないさみしさ。しかしそれでも時は巡り移る。「冷たい」と初めて人の死に触れし子の唇はうすく赤らむ 東村山市 すだちひなた

たしかなる思想をもたぬわれなれど反核署名よろこんで書く 福島県 黒沢 正行

老人らガンマンとなる将棋会に駒音響く過疎地の休日 千葉県 渡部 健

かかりつけの内外科歯科閉院すわれよりもみな年下の医師 横浜市 森崎 貞夫

保護猫のように預かるいつまでも引き継ぎ先の決まらぬ仕事 長岡市 三月 とあ

枇杷の実を食するたびに想い出す「婿」に入らずは契り許さず」と 千葉市 竹内 由一

黄砂舞ふ夜明けの空におもふなり視界のかすむ日本の針路 足利市 熊田 敏夫

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから 右の影絵はかぶと